

福島県中学校長会 広報

・会長挨拶「令和2年度を振り返って」……	1
・学校教育の今日的課題……	2
・令和2年度県中学校長会の歩みと成果……	3
・専門部会活動の概要(行財政部会・研究部会・進路指導部会・生徒指導部会・広報部会)……	4～6
・小・中学校合同理事会報告、中学校理事会報告……	6
・令和2年度東北地区中研究協議会・全日中研究協議会の概要……	7
・令和3年度県中学校長会主要行事予定……	7
・令和3年度全日中研究協議会概要……	7
・令和3年度東北地区中研究協議会概要……	7
・支会情報と特色ある経営(岩瀬・耶麻・両沼・いわき)……	8～11
・随想「災害に学ぶ」……	12



令和2年度を振り返って

福島県中学校長会会長 佐藤 晃
(福島市立福島第四中学校)

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により活動変更を余儀なくされました。4月15日の第1回理事会及び総会を书面開催、合同開会式を中止とし、6月19日の第2回理事会を书面開催、県教育庁職員との教育懇談会を中止にしました。そして、8月18日、ようやく第3回理事会及び教育庁関係者との教育懇談会ならびに懇親会を開催することができました。また、10月9日の県研究協議会会津大会を中止としました。一昨年からご準備いただいた会津地区の関係者の皆様には、心から労いと感謝を申し上げます。さらに、12月1日にはパルセ飯坂に会場を変更し、第4回理事会を開催しました。しかしながら、その後の全国的な感染拡大により2月24日予定の第5回理事会を书面開催、感謝状贈呈式及び退職役員感謝会については、中止せざるを得ない状況となり、誠に残念でなりません。

さらに、新型コロナの影響は対外的な行事にもおよび、5月の全日本中学校長会理事会及び総会はWebによる開催となり、6月の東北地区の研究協議会青森大会及び10月の全日中の研究協議会和歌山大会が相次いで中止になるなど、情報交流と研究成果の共有を図る貴重な機会を失いました。

しかし、こうした状況下においても、県中学校長会事務局及び各専門部会においては、事務局会や各部会幹事会を開催し、会合の持ち方や活動内容を工夫し、感染予防に万全の対策を講じながら、事業推進に努めました。その結果、各専門部会の活動は、ほぼ計画通りに実施され、多くの成果をあげることができました。事務局及び各専門部会の役員の皆様に心より敬意と感謝を申し上げます。

また、東北地区中学校長会研究協議会青森大会報告書として作成された「第70回青森大会の開催

に替えて～新型コロナウイルス早期終息と災害のない東北6県の安寧を願って～」には、本県相馬支会より第2分科会「生徒指導」に関する研究実践を紙上発表いただきました。いじめや不登校など解決困難な教育課題に対して、学校間や関係機関との連携・協働体制を校長としていかにコーディネートしていくか、大変参考になる内容でした。さらに「新型コロナウイルス感染症への対応」として、福島市立飯野中学校目黒満校長より「Withコロナ時代の学校経営と校長のリーダーシップ～チーム学校としてのリスクマネジメント～」を報告いただきました。学校からの発信、家庭や地域社会との協働体制に基づいた創意工夫ある取組が大変参考になりました。

さて、本会の運営にあたっては、昨年度と同様に様々な状況下にある各学校の実態を踏まえ「教育活動の正常化と当面する諸課題の解決」という基本方針により活動の充実を目指しました。大震災及び原子力災害から10年が経過しましたが、ふくしまの復興は未だ道半ばです。改めて「学校は復興のシンボルであり、活力源である」ことを肝に銘じ、双葉地区の全ての学校が地元で再開し、日常の学校生活が取り戻せるよう復興・創生の取組を一層推進していかなければなりません。また、コロナ禍が続く中で生徒や教職員の健康を守り、教育の質を担保する学校経営は、教育活動の正常化を図る取組そのものでした。感染情報や対応が次々と変化する中、迅速で的確な判断と実効ある対応が求められる学校現場は試練の連続でしたが、校長同士のネットワークが支えとなり、改めて校長会の役割や存在意義を実感し、大変心強く思いました。

終わりに、3月末をもってご退職なされる校長先生方の偉大なるご功績に対しまして、心より感謝と御礼を申し上げ、あいさついたします。

学校教育の今日的課題



—当たり前を見直す機会に—

福島県中学校長会副会長 佐藤 忠一
(会津若松市立第五中学校)

「校長先生、どうしますか？」

コロナ禍のために例年同様にはできず、判断を迫られる場面が増えてきました。学校間の足並みを揃えるためにも教育委員会の指示を仰ぎたくなりますが、学校の状況は異なるし、すぐに対応しなければならないこともあります。

今までの教育活動を見直さなければならない状況に追い込まれました。これまで「スクラップ」できなかった諸事情の前提も一変しました。コロナ禍による対応は、今までの当たり前を見直すきっかけになったことも事実です。今まで学校は、日々の教育活動でマンネリ化を感じつつも変えることに及び腰であったことは否定できません。主体的に当たり前を見直すためには、先生方の意識を変え、同意を得て、予想される対策を検討して進めていかなければなりません。信念を持って緻密に計画を練って改革を断行している校長もいますが、大変なエネルギーが必要です。しかし、この状況下では、教職員も今までどおりにできないこと、変えていかなければならないことは認識しています。今回、見直すきっかけができたことで、その活動が本当に必要だったのか、別な活動に変更できないかを検討することも容易となりました。正に「ピンチをチャンスに」なのかもしれません。

コロナ禍の影響で、オンライン授業を行う学校も多くなり、GIGAスクール構想の推進が加速しています。どの教育委員会もICT環境整備に向けて奔走しています。そのため、資材が不足して工事が順調に進まない状況もあるようです。「対面とオンラインのハイブリット」「ICTはマストアイテム」「タブレットは文房具」などの言葉も頻繁に使われるようになりました。タブレットが文房具なら、文房具の使い方を生徒に指導しなければなりません。定規やコンパスは私たちが使

用した経験を踏まえて子どもに指導（ほとんど小学校ですが）しています。教師には文房具としてのタブレットを使いこなすことが求められます。電子黒板のようにできる人はがんばって使う、苦手な人は使わなくてもいい時代ではなくなっています。高速ネットワークの整備、一人1台のパソコン（タブレット）にどれだけの予算がすぎ込まれているかを考えれば、利用状況・成果の報告が求められるのは当然です。説明責任が問われることになります。

AIが進歩し、ネット環境が整備されていけば、AIがその子の実態に応じた課題を提示してくれるでしょうし、パソコン越しのわかりやすい授業がいいと感じる生徒も出てくるでしょう。国が進めるソサエティー5.0のもと、AIやIoTにより一層進歩していきます。今の子どもが社会で働く頃には、半数近くの仕事が自動化・ロボット化される、新たな仕事に置き換えられるという試算もあります。「素直・まじめ・勤勉」なだけの人間はAIに置き換えられるという人もいます。人には新たな仕事・役割が求められることになるでしょう。私たちが学んできたこと、経験したことを生徒に教えるだけで乗り切れる時代でなくなっています。

今後、加速度的に変化していくであろう世の中を敏感に感じ取って対応していかなければ、学校だけが取り残されてしまいます。やらなければならないことは山積みです。大変ではありますが、『見直すきっかけができたことはいいことだ、「どうしますか」ではなく「どうしたいか」を考えてもらおう、生徒や教師に主体性を求めるのだから校長も主体性を発揮しよう、この際働き方も一緒に考えてみよう』と校長がポジティブな姿勢を示すこと、それが教職員の変えていこうとする意欲を引き出すことにつながっていくと思います。

令和2年度

「中学校長会の歩みと成果」



震災10年後の令和2年度はコロナ禍の中でのスタートとなり、各学校では今年度の教育課程の変更を繰り返しながらも教育活動の充実を追求し、特に学校行事

については、中止する場合も実施する場合も、特段の配慮をしながら進められてきたことと存じます。

福島県中学校長会も今年度の活動については、4月9日の事務局会において、その後どのような活動ができるか検討し、4月15日に計画されていた第1回理事会と総会は紙面開催、小・中合同開会式は中止といたしました。

紙面開催により、佐藤晃会長の再任、新副会長・理事(常任理事含む)が決定されました。その後の活動について臨時の小・中合同会長・事務局長会議や各部会長の意見を調整し、結果的に各部会の幹事会は実施されましたが、5月の各部会長会は全て中止となりました。例年5月下旬に東京で行われている全日中理事会・総会・文科省行政説明についても書面やWEB会議によるものとなりました。

市町村によって状況は多少異なりますが、6月から教育活動が正常化しました。しかしながら、各学校では、授業遅れへの対処、また、休業期間中の生徒の生活リズムを整えることにも意を用いなければならない状況でした。1年生の中学校生活もようやく本格的に始まりましたが、コロナ対策のために、三密を避け、マスクを着用し、手指消毒をすることなど、新たな生活様式を取り入れなければならない、部活動の実施においても安全安心のための情報発信に配慮されたことと思います。各種大会やコンクールも中止になることが多く、3年生の活躍の場面が減り、学校生活への意欲をいかに減退させないかで苦勞された学校も多かったようです。そのような状況下、6月中旬に予定されていた第1回小・中合同理事会は中止、第2回中学校理事会が紙面開催、教育庁との懇談

福島県中学校長会事務局長 佐藤 浩哉
(福島市立福島第一中学校)

会も中止となりました。更に、6月下旬の東北地区中研究協議会青森大会も中止となりました。

7月に高校教育課に会長、進路指導部会長とともに訪問し、県立高校入試について話し合う機会を設けていただき、昨年度の反省や今年度の実施について中学校長会としての意見を伝えました。また、行財政部会長会が開催され、各種調査まとめが行われ、要望活動資料として確認しました。さらに、退職校長会との懇談会において、現状を説明し、課題を共有していただきました。

8月18日には、第2回小・中合同理事会後に第3回中学校長会理事会、さらに、県教育庁関係者との懇談会・懇親会を開催することができました。下旬には、要望活動打ち合わせも行いました。

9月4日には県庁、自治会館において、県議会各派、県人事委員会、県市長会、県町村会を訪問し、会長、担当副会長、行財政部会長等事務局員で、要望活動を実施しました。

10月上旬に予定されていた県中学校長会研究協議会会津大会は中止となり、昨年同様、各支会で研究を推進し、研究集録を作成することになりました。また、全日中研究協議会和歌山大会が中止となりましたが大会誌は作成配付されました。

各学校においては、コロナ禍の中にあっても、教育活動の見直しを図りながら、各支会内での情報共有、地域によっては、リモート会議の実施など、校長間のコミュニケーションをさらに深めようと尽力され、教育活動の充実が図られました。

県中学校長会の活動もコロナ禍により制約を受けましたが、調査分析、要望活動、研究集録をはじめ、各部会での幹事会、部会長会議、理事会を実施し、また、「中学校生活と進路」や生徒手帳の編集作業も行われ、確実に今年度の活動を推進することができました。

困難な状況下での各種アンケートへの回答や報告書の作成にご協力いただきましたことに心から感謝申し上げますとともに、今後とも課題解決のために多くの情報を共有することができますよう、ご協力をよろしくお願いいたします。

専門部会活動の概要

● 行財政部会 ●

県小中学校長会の活動方針を踏まえ、教育行政上の課題解決に向けて組織的な対策活動に取り組みました。調査内容については、調査項目を検討し要望活動に反映できるように整理統合しました。

1 活動の重点

- 当面する重要課題の調査研究と課題解決
- 教育諸条件の整備・充実
- 教職員の待遇改善と福利厚生の上向

2 調査研究活動

- (1) 調査Ⅰ：教職員配置等に関する調査
- (2) 調査Ⅲ：教育施策の実施状況調査
- (3) 特別調査：大震災・原発事故の影響に係る調査

3 要望活動

小・中の佐藤秀美会長、佐藤晃会長を中心とする要望団を組織し、9月に要望活動を行いました。

- (1) 面談（要望内容説明）
 - ① 福島県人事委員会
 - ② 県議会議員政党等
- (2) 要望書届け
 - ① 福島県市長会、町村長会
 - ② 福島県町村議会議長会、市議会議長会
 - ③ 市町村教育委員会連絡協議会、都市教育長協議会、町村教育長協議会の代表機関等
- (3) 主要要望事項
 - ① 教職員の加配教員の継続的配置について
 - ② SC及びSSWの拡大配置について
 - ③ 学級編制基準や教職員定数改善について
 - ④ 人材確保のための処遇改善について

4 教育懇談等

関係機関と懇談を行い現状説明等を行いました。

- (1) 福島県公立学校退職校長会（7月16日）
- (2) 福島県教育庁関係者（8月18日）
(行財政部会長 大越 一也)

● 研究部会 ●

1 共通理解に基づく共同研究の推進

研究主題「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を創り出していく日本人を育てる中学校教育」を指標とした8小主題について、「研究の手引き」を活用し、各支会・各校の実態に即して

2年次の研究を推進しました。

第48回福島県中学校長会研究協議会会津大会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となりましたが、各支会単位で担当小主題について研究を進めました。

各支会の感染状況に応じ、感染拡大予防のためのリモート会議やメールでの情報共有等、研究の進め方を工夫し、研究を推進しました。各支会での発表・協議等を通して、研究の深化ならびに成果と課題の共有を図ることができました。

2 研究集録の編集及び刊行

第48回福島県中学校長会研究協議会会津大会は中止となりましたが、各支会での調査研究の充実ならびに資料や情報の提供・共有を図るため、研究集録を刊行し、県内全会員へ配付しました。

研究集録には、各支会での8小主題に基づいた研究の視点に加えて、各校で欠かすことのできない新型コロナ感染症への対応についての取組も盛り込まれました。

集録を通じて、各支会の研究成果と課題ならびに新しい生活様式を踏まえた学校経営の実践を共有することができました。

3 全日中、東北地区中と連携した研究の深化

第70回東北地区中学校長会研究協議会青森大会及び第71回全日本中学校長会研究協議会和歌山大会が新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止となりましたが、大会誌が刊行されました。

東北地区中学校長会研究協議会大会誌では、第2分科会において相馬支会が生徒指導に関する研究の成果について誌上発表を行うとともに、研究部から新型コロナウイルス感染症への対応の誌上報告を行いました。大会誌を通じて東北各県へ情報を提供するとともに、他都道府県の研究の取組についての情報収集により研究の深化を図ることができました。

4 原発事故に関わり、学校教育が向き合った課題、対応等の発信

震災後10年が経過した福島の実状を記録し累積するため、引き続き研究集録の中に「ふくしまの今」～双葉支会の現状～を掲載し、復興の新たなステージに向けて双葉支会の抱える課題等を全会員で共有しました。

(研究部会長 目黒 満)

● 進路指導部会 ●

1 「生き抜く力」をはぐくむキャリア教育の視点にたった進路指導の充実

各支会においては、新学習指導要領全面实施を踏まえ、キャリア教育の視点を重視し、地域の実情に即した進路指導を推進しました。

また、部会長会で協議・情報交換を行い進路指導の体制等の改善・充実を図りました。

2 高等学校入学者選抜方法改善への対応と連携

「進路指導に関する調査」の集計結果をもとに、県立高等学校入学者選抜事務調整会議で入学者選抜の方法・内容等の改善・見直しについて提言しました。特に、新型コロナウイルス感染対策としての選抜実施の在り方に関して、中学校の立場から意見を述べました。その結果、出題範囲の削減や感染者等の受験機会の確保、調査書の点数化の見直しなどの改善が図られました。

また、調査書の記載内容の統一については、コロナ禍等による変更点を明確にして、中学校長会、高等学校長協会と連携を図りながら、各中・高等学校に周知しました。

3 「中学生生活と進路」〈福島県版〉の編集

新学習指導要領の趣旨を踏まえながら、副読本「中学生生活と進路」の改訂にあたり、全国版と県版の内容の整合性を図るとともに、生徒の実態や本県の状況に応じた内容となるように改善を加えました。

4 進路指導に関する諸調査の実施

全県一斉の「進路動向調査」を2回実施し、福島県中学校長会のホームページに掲載しました。2回目の調査では、県立高等学校前期入試を、特色選抜、一般選抜、連携型選抜に区分して集計し、動向を把握できるようにしました。

また、令和2年度末実施の「進路指導に関する調査」の調査項目等の見直しを図りました。

(進路指導部会長 阿部 孝寿)

トトラブルやコロナ感染者への中傷等、新たな問題に対し、規範意識を高める指導を実践しました。

2 震災、原発事故等にかかわる課題と当面する諸課題の把握、その解決や未然防止

6月に「震災後の生徒指導の諸問題に関する調査」を実施しました。過去5年間における経年変化に着目し、学校での対応の移り変わりや生徒の実態の変化について数値化を図り、分析・考察することができました。

不登校に関しては、引き続き増加傾向にあり、SCやSSW、関係機関との連携による対応が望まれます。いじめに関しては、各学校において、初期の段階で積極的に認知しようとする姿勢が継続されています。虐待に関しては、約4分の1の学校から発生が報告されており、どの学校でも起こりえる問題として想定する必要があります。反社会的行為に関しては、粗暴行為の増加が気になります。さらに、SNSを介した交友関係の拡大による対外的な不良行為も心配されます。

インターネット利用に関しては、トラブルに対する保護者の危機意識は温度差が大きく、ネット使用の環境管理が徹底できない家庭に対しては、打開策が見いだせない状況にあります。年々生徒のスマホ所持率やネット使用時間は確実に増加しています。ネット依存に関する相談機関や医療機関の整備、社会全体で構築する安全なネット環境等、子どもを守る対策を講じることは喫緊の課題です。

3 小学校及び高等学校、関係機関等との連携

小・中学校、高等学校の連携は年々強化され、インターネットの利用等、今日的な課題に関して関係機関の協力を得ながら、地域と一体となった指導・協力体制が構築されています。

4 生徒手帳の編集、刊行

令和3年度版「生徒手帳」は、編集委員を中心として編集、刊行することができました。

(生徒指導部会長 渡辺 康弘)

● 生徒指導部会 ●

1 自己指導能力の育成と規範意識の向上

コロナ禍という想定外の事態に直面しながらも、校長がリーダーシップを発揮し、行事等の創意工夫を図り、自己存在感を与え、共感的な人間関係を育成する教育活動が展開されました。さらに、学校における生徒指導の機能を生かし、ネッ

● 広報部会 ●

本年度も、広報誌「福島県中学校長会広報」を2回発行しました。ホームページの維持・管理とともに、要望活動等を記録し、本会及び関係団体等の活動状況や会員に役立つ情報などを提供しました。

【広報の主な編集内容】

1 第164号（7月1日発行）

- 会長就任の挨拶
- 県中学校長会総会（書面）の概要及び組織
- 学校教育の今日的課題
- 県中学校長会の活動と運営
- 各専門部活動の概要
- 第71回全日中WEB総会の概要
- 支会情報と特色ある経営
- 新会員紹介及び新会員の声
- 随想

2 第165号（3月1日発行）

- 令和2年度を振り返って
- 学校教育の今日的課題
- 令和2年度県中学校長会の歩みと成果
- 各専門部活動の概要
- 県小中学校合同理事会・中学校理事会報告
- 全日中・東北地区中学校長会の報告
- 令和3年度中学校長会主要行事予定
- 令和3年度全日中・東北地区中研究協議会概要
- 支会情報と特色ある経営
- 随想（広報部会長 佐藤 成紀）

● 小・中学校合同理事会報告 ●

年間を通して計4回の合同理事会を、以下の日程・会場・内容で開催しました。

第1回 6月19日(金) ※

- ・ 令和2年度の組織、行財政部の諸調査、生徒指導上の小・中連携強化等の報告
- ・ 令和元年度人事の反省
- ・ 令和2年度要望活動、教育懇談の協議 等

第2回 8月18日(火) 福島グリーンパレス

- ・ 行財政部会諸調査報告
- ・ 各種団体との教育懇談会報告
- ・ 「『教員の働き方改革』宣言2020」の教育課程への反映状況調査結果報告
- ・ 要望活動、教育懇談会、令和3年度小・中合同開会式の開催日程等の協議 等

第3回 12月1日(火) パルセいいざか

- ・ 教育懇談会、要望活動の実施報告
- ・ 働き方改革調査結果の公表
- ・ 生徒指導調査結果の公表
- ・ 次年度各調査、合同開会式の協議 等

第4回 2月24日(水) ※

- ・ 退職役員感謝状贈呈式・感謝会の報告

・ 次年度の合同開会式、行事計画の協議 等
本年度の合同理事会は、コロナウイルス感染拡大防止の対応として、福島市の会場に参集して開催予定であった第1回を中止し、紙面による会議としました。第2・3回は、感染防止対策を徹底するため会場等を変更して開催しました。第4回は書面開催としました。

今年度は、新たに「教員の働き方改革宣言2020」の教育課程への反映状況調査結果と、児童生徒の「SNS・ネット利用の実態」調査結果の公表について協議し、12月に公表されました。第3回の理事会では、「宣言に基づく教員の働き方改革元年」である今年度の取組を重視し、今後も更なる改革推進を図っていくこと、「SNS・ネット利用の実態」調査結果の数字については、各支会、地教委独自で行っている調査結果との整合性を図り慎重に取扱う必要があるなど、活発な協議が行われました。

いずれも学校において喫緊の課題であり、本調査の結果公表は重要な意味をもつと思われます。

● 中学校理事会報告 ●

年間を通して予定していた計5回の理事会を、以下の日程・会場で開催しました。

第1回 4月15日(水) ※

第2回 6月19日(金) ※

第3回 8月18日(火) 福島グリーンパレス

第4回 12月1日(火) パルセいいざか

第5回 2月24日(水) ※

本年度の理事会は、コロナウイルス感染拡大防止の対応として、2回目までを福島市の会場に参集しての開催は中止し、紙面による審議・承認の形で行いました。3回目からは感染防止対策を徹底するため会場等を工夫して開催しました。

理事会では、組織運営や各部の年間活動計画と進捗状況の報告、予算・決算、東北、全日中研究協議会への参加や分担、県研究協議会の準備等の協議に加え、新型コロナウイルス感染症の対応について活発な情報交換を行いました。修学旅行や文化祭、合唱祭等の学校行事の在り方や中体連大会の参加方法、タブレットを導入した学習支援など今後学校に求められる内容について、今年度だけでなく次年度以降も見通した改善策等について協議を通して模索しました。

（※は書面開催としました。）

令和2年度東北地区中研究協議会・ 全日中研究協議会の概要

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、6月25、26日に開催予定であった第70回東北地区研究協議会青森大会と、10月22、23日に開催予定であった第71回全日中学校長会研究協議会和歌山大会が中止となりました。

東北地区中青森大会では、大会自体は中止となりましたが大会誌を作成する関係で、第2分科会(生徒指導)で発表を予定していた相馬支会(石神中学校、佐藤校長先生)と、新たに情報交換として加わった各県の新型コロナウイルス感染症の対応について、本県の具体的な対応を研究部会長(飯野中学校、目黒校長先生)に執筆いただき、大会誌は全会員に配付されました。

全日中研究協議会和歌山大会も中止となりましたが、大会誌が作成され、各支会からの参加予定者に第4回理事会で配付されました。

以上のように、残念ながら今年度は2つの研究協議大会が中止となりましたが、全日中の第2回理事会が10月21日にWeb上で行われるなど、次年度の開催に向けて準備が進められています。

令和3年度県中学校長会主要行事予定 〔県、東北地区中、全日中関係〕

月	日	県 関 係	東北地区中・全日中関係
4	12 21	合同事務局会① 総会・理事会①	
5	7 14 19 20 25 26 28	行財政部合同部会長会① 研究部会長会① 合同事務局会② 生徒指導部会長会① 進路指導部会長会①	全日中理事会① 全日中総会(～21)
6	4 11 24 24	合同理事会①、理事会②	東北地区中副会長会① 東北地区中理事会① 東北地区中岩手大会(～25)
7	6	行財政部合同代表部会長会① ・広報第166号発行	
8	3 18	合同事務局会③ 合同理事会②、理事会③	
9		要望活動	
10	20 21 26	進路指導部会長会②	全日中理事会② 全日中静岡大会(～22)
11	15 16 18	合同事務局会④ 研究部会長会② 生徒指導部合同部会長会①	
12	2	合同理事会③、理事会④	
1	17 20 21 26 28	研究部代表部会長会① 進路指導部代表部会長会① 生徒指導部代表部会長会①	全日中理事会③ 東北地区副会長②、理事会②
2	7 9 24	合同事務局会⑤ 行財政部合同部会長会② 合同理事会④、理事会⑤(～25)	
3	14	・広報167号発行 会計監査	

令和3年度全日中 研究協議会概要

第72回全日本中学校長会研究協議会静岡大会が以下のように開催される予定です。

- 期 日
◇ 令和3年10月20日(水)～22日(金)
- 会 場
◇ 静岡県浜松市内の各会場
- 研究協議会主題
「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく日本人を育てる中学校教育」
- 主な内容
◇ 第1日：10月20日(水)
・ 全日中常任理事会、理事会
・ 全体協議会運営委員会、分科会運営委員会
◇ 第2日：10月21日(木)
・ 開会式、文科省説明
・ 全体協議会、研究協議(8分科会)
◇ 第3日：10月22日(金)
・ 全体会、記念講演、閉会式
※ 講演者 池谷 裕二 氏
東京大学薬学部教授

令和3年度東北地区中 研究協議会概要

第71回東北地区中学校長会研究協議会岩手大会が以下のように開催される予定です。

- 期 日
◇ 令和3年6月24日(木)、25日(金)
- 会 場
◇ 岩手県盛岡市 岩手県民会館
- 研究協議会主題
「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく日本人を育てる中学校教育」
- 主な内容
◇ 第1日：6月24日(木)
・ 理事会、分科会運営委員会
・ 開会式、全日中報告
◇ 第2日：6月25日(金)
・ 研究協議会(3分科会)
・ 記念講演、閉会式
※ 講演者 菊池 幸見 氏
IBC岩手放送・放送本部報道局アナウンス部専任部長兼編成局ラジオ放送部専任部長、エッセイスト、小説家、コピーライター、方言詩人でもある

支会情報と特色ある経営

岩 瀬

岩瀬支会の活動



岩瀬支会長 薄井 英一
(須賀川市立第二中学校)

岩瀬支会は、須賀川市10校、鏡石町1校、天栄村2校の3市町村13校で組織され、「岩瀬の校長会は一枚岩」を合い言葉に、13名の会員が一致団結して活動しております。

特に今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の中、学校運営に関する共通実践事項の協議や情報交換を目的として、FCSのネットワークを活用した「Web会議」をこれまで10回実施しました。毎回1時間程度、必要な場合は事前に協議資料を準備して開催し、各校のコロナ対応の課題解決に向けた決断に役立てることができました。しかし、例年実施してきた様々な懇親会や懇談会が一切開催できず、大変残念な一年でした。

その他の岩瀬支会の活動を紹介します。

1 「岩瀬地区校長会中学校部会」

地区小・中学校長協議会総会・全体会や学校経営研究会後に開催し、各部会や中体連・中教研に関する協議、情報交換等を年7回開催しています。

2 「学校経営研究会」

第1回目は、コロナ禍で半日開催となりましたが、先輩校長(退職予定者)からの体験発表に学びました。第2回目は、公立岩瀬病院院長三浦純一様の「新型コロナウイルスから地域社会と子どもを守る」と題した講義と須賀川市教育委員会教育長 森合義衛様の講話から多くのことを学びました。先輩校長の体験発表も好評でした。

3 「中・高連絡協議会」

6月には、岩瀬地区の中学校・県立高校・特別支援学校の校長と生徒指導主事が生徒指導上の情報交換をし、10月には、県立高校及び特別支援学校の校長が、中学校長と進路指導主事に対して学校説明会を行いました。

4 「新任校長研修会」

新任と転入の校長に対して、年3回会長・再任用校長が、岩瀬地区の紹介や校長としての心構えなどを講義・講話形式で実施しました。

《学校紹介》

持続可能な学校を目指して

須賀川市立西袋中学校

本校は、「須賀川きゅうり」の代表的産地に加え、稲作はもちろん、梨の生産が盛んなエリアと新興住宅地や郊外型大型商業施設の開発が続くエリアが共存し立地している全校生286名の学校です。

本市では、学校教育の重点として、「授業と授業研究を第一優先にした学校づくり」を推進していますが、本校では、その根幹である「協同的な学び」を中心とした授業研究について、10年以上前から先進的に取り組んできました。

さて、今、どの学校も未知の新型コロナウイルスの感染拡大防止の取組が教育活動全般に求められています。本校では、A I プログラミング部が中心となって、既存の校内Wi-Fi環境を活用して、タブレットと大型テレビやプロジェクターの接続を行い、教師や生徒が、会議室と各教室を結んだりリモート生徒会総会や3密を回避した集会活動の企画・運営に努めています。

他にも、臨時休業中に各学年でZoomを活用したWeb学年集会で健康観察を行うなど、GIGAスクール構想の前倒しで1人1台学習者用端末が生徒の手元に届くことを想定した様々な試行錯誤を徐々に重ねているところです。



「9年間の学びと育ちに教師が責任を持つ学校づくり」、「保護者・地域と一体となった教育活動の推進」を2つの柱とした「小中一貫教育」須賀川モデルや教職員の働き方改革の推進等、課題は山積していますが、コロナ禍がしばらく続くとしても、オンラインとオフラインを掛け合わせた「ハイブリッド」な教育活動の展開で「子どもの学ぶ権利を一人残らず保障し、子どもが夢中になって学ぶことができるようにする。」という原点を大切にしていきたいと思います。(校長 遠藤 彰)

耶 麻

耶麻支会の活動



耶麻支会長 五十嵐正彦
(西会津町立西会津中学校)

耶麻支会は喜多方市、西会津町、北塩原村の計10校で組織されています。他の支会同様に、耶麻支会でも急激な生徒の減少により、さまざまな面で活動に支障が生じていますが、工夫しながら活気を失うことのないように努力しています。また、小学校20校で組織する耶麻地区小学校長会と密接に連携し、「耶麻地区小中学校長会連絡協議会」を組織して、一体となって活動しています。

しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により、計画した事業等はことごとく中止となっていました。こうした困難な状況下ではありましたが、中学校間並びに小・中学校間さらには中・高校間の連携を大切にして、工夫しながら研修等に取り組んでまいりました。

4月の総会の後、予定していた校長会・研修会は実施できず、10月に、何とか小中合同での研修会を行うことができました。主な内容は、「児童生徒の学力向上とこれから目指すふくしまの教育」と題しての会津教育事務所長横山修様による講演でした。具体的な事例を交えて大変わかりやすいお話で、これから目指すべきふくしまの教育の在り方を、大変よく理解することができました。

そして、11月には、「耶麻地区中学校長・高等学校長連絡協議会」を実施し、5つの高校の校長先生方と、高校入試や生徒指導等について大変有意義な情報交換・協議を行うことができました。

一方、集まることが大変難しい状況が続いた中で、なんとかスピーディに情報交換したいと考え、メールやグループLINE、Googleclassroomなどを活用することが多くなり、ICT活用の有効性も実感することができました。

今年度の貴重な経験を今後活かせるように、改善すべきところはしっかりと改善して、10校の校長がさらに力を合わせて、さまざまな教育課題に取り組んでいきたいと思っています。

《学校紹介》

「おらほの学校」のめざすところ

北塩原村立第一中学校

1 本校の特色ある教育

北塩原村には、風光明媚な五色沼を中心に四季を問わず多くの観光客が訪れます。しかし、あの美しい景観は自然の産物ではなく、磐梯山噴火後に村人が地域と森を復興するために造られたことはあまり知られていません。本村は、地域を守る先人の強い力によって受け継がれてきました。あの伊達政宗の会津侵攻さえも許さなかった地域でもあります。近年、地域を担う若者の流出が深刻な問題になっています。地域の次世代を担う人材育成について学校教育の果たす役割は大きいと考えます。本校は、豊富な地域素材について、地域人材を活用しながら、教科やキャリア教育と関連づけながら行う地域学習に特色があると思っています。

2 生徒たちが学習しているおもな地域の特色



(1) ニッコウキスゲの花が咲く頃、雄国沼まで歩きながら沼の成り立ちや森のあゆみを学びます。

(2) 銅沼、五色沼、噴火記念館を訪れ、村の復興と観光について学びます。

(3) 米澤街道を通ったおもな歴史上の人物、伊達政宗、伊能忠敬、吉田松陰、土方歳三について学び、歴史の学習と関連づけます。

3 めざす生徒像、学校像

(1) 地域のよさを再認識するとともに課題に気づき、地域の発展に貢献しようとする、生徒を育成していきたいと考えています。

(2) 地域に開かれた学校経営をめざし、地域の人々から「おらほの学校」と愛される学校にしていきたいと思っています。

(校長 植村 信)

両 沼

今年度の両沼支会



両沼支会長 岩澤 一徳
(会津美里町立高田中学校)

両沼支会は会津坂下町、湯川村、柳津町、会津美里町、三島町、金山町、昭和村の7町村9校で組織されています。9校それぞれが

規模も立地条件も異なり、課題も多様ですが、その違いを情報交換することで、特色ある学校づくりへの豊かな着想や発想の転換につながっています。

4月7日の総会より新体制でスタートしましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、5月の第1回定例会は中止せざるを得ませんでした。再開できた6月の第2回定例会においては、新型コロナウイルス感染予防について授業や部活動、学校行事等の情報交換がなされ、安心や新たな取組を得ることができました。特に修学旅行についての各校の判断は大きな参考になりました。7月にはWeb(リモート)会議も実施し、校長会の活動の可能性を広げることができました。

定例会や夏冬の研修会における内容は、コロナ禍はもちろんのこと、少子・高齢化や過疎の問題から、各校の部活動の存続や中体連大会のあり方、中教研の会員減少など先延ばしできない課題について、互いの悩みを共感的に議論してきました。

具体的には、中教研における耶麻支部との組織合併への道筋、令和4年度の県中教研研究協議会会津大会の役割、中体連新人大会の廃止についてなど、中体連や中教研だけに任せるのではなく、積極的に思い切った変革への期待を各組織に伝えてきました。それは、諸先輩方から引き継いでいる「生徒一人ひとりの健やかな成長」という一点を忘れず校長会の使命を果たすためです。

今年度は退職校長会との教育懇談会、懇親会を中止としましたが、諸先輩方の豊かな経験に基づくお考えや示唆を頂戴できる貴重な機会を次年度は持てればと思います。

両沼中学校長会は、今後も関係団体との連携を密にし、活発な意見交換と活動を通して、信頼される学校づくりに努力して参ります。

《学校紹介》

地域とWIN-WINになる学校づくり

湯川村立湯川中学校

湯川村は会津盆地の真ん中にあり、「会津のへそ」ともいわれる4km四方の県内で一番小さい自治体です。本校は、村内で唯一の中学校です。

今年度は、コロナ禍での感染防止策に配慮しながらの実施でしたが、本校の取組を紹介します。

1 新型コロナウイルス感染症について学ぶ授業

6月に学校が再開していち早く、養護教諭を講師にウイルスの特性や予防法についての特別授業を行いました。村内の小学校と共有しました。

2 農業体験学習

毎年、本村の基幹産業である稲作体験(田植え、生育観察会、稲刈り、収穫祭)を、地元農家の方を講師に行っています。

3 漫才講座

本校の生徒は、自己肯定感や自己有用感が低い実態にあります。そこでコミュニケーション能力や自己表現力を育むための手立てとして、地元NPO法人とプロ漫才師の協力で漫才講座(全4回)を行いました。まとめの発表会の時には、保護者だけでなく、村社会福祉協議会を通して地域の方に参観していただきました。



4 ゴミ拾い活動

生徒会役員と有志ボランティア隊が、村地域づくり協議体(さすけね会)と協力し、学校周辺や通学路の一部のゴミ拾い活動を、地域の方々と交流しながら行いました。



5 参道ライトアップ用灯籠、村イルミネーション設置活動

美術科の授業で、勝常区(勝常寺)活性化対策委員会、村商工観光係と協力しながら参道用灯籠の制作、イルミネーションの設計・設置の一部に関わりをもって取り組みました。

(校長 板橋 和典)

いわき

いわき支会の取組



いわき支会事務局長(県理事)
森 義彦
(いわき市立勿来第一中学校)

いわき支会は、39校38名の会員（1校は小中兼務校で小学校籍）によって構成されています。

また、いわき市1市だけで構成されており、1教委1事務所ということもあり、教育行政と校長、校長間の連携を取りやすい組織だと思います。

今年度はコロナの影響により、教育課程を変更しながらの学校経営を迫られ、校長間の連携の大切さを痛感する1年間でした。いわき支会では、コロナ禍における学校の対応について研修したり、情報交換したりするため、次のように臨時の校長会を2回開催しました。

1 感染者等が判明した場合の対応（4月下旬）

市内の小学校で感染者や濃厚接触者が判明した後、兄弟が通う近隣の中学校の対応を振り返りながら、事例研修を行いました。実際に対応した2人の校長から生々しい話を聞き、質疑や情報交換を通して、即座に対応すべきこと、注意が必要な対応などについて共有することができました。

2 修学旅行や中体連地区大会の実施（7月中旬）

いわき市教育委員会からの指導を頂きながら、主に次の2点について情報交換を行いました。

(1) 修学旅行について

多くの学校は、4月から2学期に延期を予定しており、旅行先の変更や旅行を中止する際の配慮事項などについて確認しました。また、キャンセル料についても見通しをもって対応できるようになりました。

(2) 中体連いわき地区大会について

中体連地区大会の実施や運営について確認するとともに、今回初めて実施する「ボッチャ競技」について意見交換を行いました。大会当日は、特別支援学級の生徒がとても輝いており、大成功を収めることができました。

今後も、教育行政と校長、校長間の連携を密にしながら取り組んでいきたいと思っています。

《学校紹介》

中体連「ボッチャ競技」の開催

いわき市立玉川中学校

「特別支援学級生、勝って喜び、負けて清々しく」あるブログの中で、このような見出しで紹介されたのは、この秋に本市中体連で実施した「ボッチャ競技」でした。

中体連は「生徒の健全な心身の育成、体力の増強及び体育・スポーツ活動の振興を図り、もって中学校教育の充実と発展に寄与する」ことを目的としていますが、加えて「中学生に広く実践の機会を与えること」「生徒相互の親睦を図ること」もねらいとしています。これまで特別支援学級の生徒が中体連に参加するのは、障がいによるハンディーがあることや運営面での困難な状況から厳しい現実がありました。

そんな中、本市中体連と市中学校長会とが連携し、さらに市教育委員会、協力企業、県立支援学校等の関係者からのご協力・ご支援をいただき、また、新型コロナウイルスの感染予防対策を整えた上で大会に臨みました。

大会当日は市長、市教育長のご臨席のもと、開会式、始球式が行われ、市内20校から147人の生徒がボッチャ競技に参加し、熱戦を繰り広げました。コロナ禍の中、多くの課題はありましたが、生徒がボッチャ競技を通して、社会との関わりをもち生涯スポーツとして楽しむことや障がいに負けず自信をもって主体的に生きることにつながり、大会となりましたし、正しい障がい者理解の啓発を図る機会となりました。大会後の生徒からは「自信をもって行動するようになった」等の変容が見られたとともに、開催の趣旨が達成されたことを実感し、うれしく思った次第であります。



(いわき市中体連ボッチャ競技部長 松崎 伯文)

2011年3月11日、突如起きた東日本大震災とそれに伴う原発事故は、それまでの日常を一変させる出来事でした。学校では屋内外の施設使用が制限され、窓の開閉にも気遣う日々が続きました。

あれから10年、未だに故郷へ帰還できない人がいる中、2020年新型コロナウイルス感染症が世界を震撼させ、全国一斉の臨時休校措置がとられるなど、再び非日常の生活を余儀なくされています。

私が校長に就いた際、恩師から「校長として何より大事なのは、生徒の命（心と身体）を守ること」とご教示いただきました。震災時やコロナ禍の今、この言葉はより重く心に響いています。事故が起こったとき、「想定外の出来事」「未曾有の事態」で済まされないのが現実です。あらゆる事象に対応できるよう危機管理意識を磨いておくことが重要であると痛感しました。

しかし、災害などの非常事態は一方では人間の強さに触れる機会ともなります。震災当時、世界中のTVでは津波で変わり果てた街を映しましたが、同時に家族を探し物資が届くのを待ちながらも冷静さを失ってない日本人のもう一つの側面を伝えました。そこには略奪や暴動の気配は一つもなく、冷静に秩序正しく対応し、礼儀正しい日本社会がありました。「窮地に追い込まれたときこそ湧き上がる日本人としての誇りが、人として正しい判断を示している。」と驚きとともに、世界中から賞賛の声が届きました。

自然災害の多い日本では、幼い頃から災害対処の教育を受けていますが、命の大切さや他人に迷惑をかけないなど、日本人固有の精神的価値が根付き、災害時にも生きている証であると思います。震災を乗り越えようとしている今、コロナ禍で人の心にも不安が蔓延していますが、どのようなリスクに直面しているのか、十分に知識を得るとともに、日本人のもつよさを最大限に生かし、

冷静に対処しなければならないと思います。

さて、近年震災やコロナ禍の影響もありますが、元気に外で遊び回る子どもの姿をほとんど見かけなくなりました。私の幼い頃は、近所に同年代の子どもが多かったこともあり、野山や田んぼ、空き地などありとあらゆる場所で遊び回っていました。不審者情報などもあり「外は危険」の印象が強くなっており、休校中も室内でゲーム中心の生活が多かったようです。人の成長は年齢に応じた体験が必要であり、友達とケンカしたり、仲直りして社会性が育っていきます。これから生きる子どもが自由に遊べる環境をつくることは、私たち大人の大切な役割であると思います。

また、これまで人類は、狩猟社会・農耕社会・工業社会・情報社会と発展変化を続け、この先に見えてきた新たな社会がSociety5.0（超スマート社会）です。もの・情報・人をつなぐとともにAI等の活用により、量と質の最適化をはかる社会へ進みます。学校教育において、ICTを活用した新たな教育も提唱され、大きな変革の時代を迎えます。

近年の学校教育は、昭和40年代から50年代前半には、社会の複雑・高度化に伴う知識量の増大と質の向上、50年代後半から平成10年頃には量的拡大により生じた弊害に対し、内容の精選化とゆとり教育の推進、そして平成10年以降は、思考力・判断力・表現力等のバランスを重視した脱ゆとり教育と変化してきました。

時代に伴い社会や教育のあり方が変わろうと、子ども一人ひとりが日本人としての誇りと高い理想をもち、夢の実現へ向け努力する姿は貴重です。私の教職生活を通し、どれだけ伝えることができたか不安の多いところではありますが、教育の素晴らしさを教えていただいた多くの生徒や先輩方、同僚には感謝するばかりです。

随想



福島県中学校長会副会長
土田 宏
(福島市立福島第二中学校)

災害に学ぶ

(一財)福島県教育会館 事業ご案内

福島県教育会館の下記事業につきまして、ご理解ご支援をよろしくお願い申し上げます。

- 夏休みの友 ●福島県立高校入試問題集 ●福島県書きぞめ展 ●教育関係者名簿 ◆大ホール・貸し会議室(教育関係者は半額)
福島市上浜町10-38 office@kyouikukaikan.jp TEL 024-523-0206 FAX 024-523-0208